

篠養だより



「夢と希望を抱き 心豊かに たくましく生きる子の育成 ～ 明るく いきいきと ～」
 ◇丹波篠山市立篠山養護学校 ◇丹波篠山市沢田120-1 ◇tel 552-5237 ◇fax 552-6222
 幼稚部0名 小学部21名 中学部12名 高等部15名 計48名 早期発達支援室2名 総計50名 No.7

実り多き2学期に！～勇気ある一步を応援します！～

長かった夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。いよいよ今日から2学期が始まりました。コロナ禍で初めて行動制限のない夏休みでしたが、保護者、地域の皆様には、休み中の感染対策や見守りなど大変お世話になり、ありがとうございました。お陰様で事故やケガ等の報告もなく、大変喜んでます。

さて、お盆を過ぎてからも残暑の厳しい毎日が続いていましたが、ここ最近になって朝夕めっきり涼しくなってきました。日の出の時刻も遅くなり、たわわに実った稲穂の上をアキアカネが飛び交う姿を見ると、秋の気配を強く感じます。

秋といえば、スポーツの秋、読書の秋、食欲、味覚の秋…。

そうです。一年を通して丹波篠山が最も賑わう季節です。学校でも、この2学期は各学部の修学旅行やささよう展、ささよう音楽会など、様々な行事が目白押しです。これらの行事を通して、子どもたち一人一人が自分の可能性を伸ばし、失敗や成功体験を積みながら大きく成長してくれることを願っています。

ぜひ、2学期のスタートに当たり、新たな目標を定め、その目標に向かって一步を踏み出してください。皆さんの勇気ある一步を応援します。

それでは、今学期も、何事にも一生懸命に、「明るく いきいきと」頑張っていきましょう。

好奇心は“学び”の原動力！

「宇宙の秘密が知りたくなった、と思うと、いつのまにか自分の手は一塊の土くれをつかんでいた。そうして、ふたつの眼がじいっとそれを見つめていた。

すると、土くれの分子の中から星雲が生まれ、その中から星と太陽とが生まれ、アメーバ（アメーバのこと）と三葉虫とアダムとイヴとが生まれ、それからこの自分が生まれて来るのをまざまざと見た。

……そうして自分は科学者になった。

しばらくすると、今度は、なんだか急に唄いたくなって来た。

と思うと、知らぬ間に自分の咽喉から、ひとりりで大きな声が出て来た。

その声が自分の耳にはいったと思うと、すぐに、自然に次の声が出て来た。

声が声を呼び、句が句を誘うた。

そうして、行く雲は軒ばに止まり、山と水とは音をひそめた。

……そうして自分は詩人になった。 （大正九年八月「渋柿」より）」

一塊の土くれの中に広大な宇宙を見出し、さらに太古の生命の誕生から自分の誕生を想像する。その想像力（創造力）の豊かさに、私は感動しました。

もしかすると、子どもの持つ好奇心は、目には見えないけれど、想像（創造）に満ちたものなのかもしれません。

また、急に唄いたくなったら大声で唄えばいい。自由気ままに作詞、作曲をするのもいい。

科学者になったり、詩人になったり、心の赴くがままに書き綴られているこの作品に、私は何だかとても心が惹かれました。

子どもの学びの原動力は、「なぜ?」「どうして?」「不思議!」「もっと知りたい!」という知的好奇心。大人はいつの間にか、その子どもの持つ好奇心の芽を摘み取ってはいないだろうか。

大正時代に書かれたこの作品を読んで、少なくとも、学校という教育現場では、そうあってはならないと強く感じた夏でした。



